

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境			0.40		-			3.0
1 音環境		3.0	0.15	3.1	1.00			3.0
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.50	3.2	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.00	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	部材性能=LL-45。	3.0	-	4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.00	3.0	-			
2 温熱環境		2.0	0.35	2.7	1.00			2.5
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.7	0.50			
1 室温		3.0	0.62	3.0	0.63			
2 外皮性能	断熱等性能等級4を確保している。	3.0	0.37	5.0	0.38			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.00	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30			
3 光・視環境		2.6	0.25	3.2	1.00			3.0
3.1 昼光利用		1.8	0.30	2.5	0.50			
1 昼光率		1.0	0.60	2.0	0.50			
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.50			
1 昼光制御	カーテンと庇を組み合わせて昼光を制御できる。	3.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気環境		3.5	0.25	3.7	1.00			3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	ほぼ全体的にF☆☆☆☆以上を使用している。	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.40	3.3	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能	換気可能な開口部面積が居室床面積の1/8以上を確保している。	3.0	0.00	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.00	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			2.8
1 機能性		3.6	0.40	2.0	1.00			2.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.9	0.40	2.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	0.00	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.00	2.0	1.00			
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法移動等円滑化基準を満たしている。	4.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		3.9	0.30	2.0	0.40			
1 広さ感・景観		3.0	0.00	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.00	-	-			
3 内装計画	共用部分のコンセプトに合わせた内装と照明の統一をCGで検討している。	4.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:CFシート=20年。壁:ビニルクロス=20年。天井:ビニルクロス=30年。最短耐久年数=20年	4.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管はVLP(B)、汚水排水はVP(B)とし、Eは不使用。	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-			
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備	系統を区分化。井戸水(温泉)を利用。受水槽に非常時用の蛇口を設置。	4.0	0.20	-	-			
3 電気設備		3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-			

3 対応性・更新性			3.1	0.30	2.8	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり			3.0	0.00	2.6	0.50	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.00	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		PF管を使用して壁内及び天井裏を配線している。	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率=62.71%、緑被率・中高木水平投影面積率=32.88% 住宅用途のため空調設備及び燃焼設備の排熱影響はないものとする。	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱等性能等級4を確保している。	4.9	0.20	-	-	4.9
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.75 住宅(専有部) 0.82	4.7	0.50	-	-	4.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)		非住宅BEI=0.75	4.7	0.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)		住宅専有部の一次エネルギー消費率=0.82 住宅共用部の一次エネルギー消費率=0.86	4.7	1.00	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	0.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		自動水栓のほか、擬音装置を設置している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		温泉水を生活用水に使用している。	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS+ボード下地など、解体時に分別しやすい工法を採用している。	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=82%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		隣棟間隔指標RW=1.11、地表面対策面積率=46.69%	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		光害対策ガイドラインの一部を満たし、広告物照明には過半を満たしている。	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	